

第 8 期の「TPiCS プロジェクトマネージャ養成コース」で、1 人の「認定指導員」山梨リコー株式会社の牛山さんと 2 人の「指導員(補)」東芝 IT コントロールシステムの大前さん(2 級)、鶴崎海陸運輸の小林さん(3 級)が誕生しました。

前回から呼称を「TPiCS プロジェクトマネージャ養成コース」に変えたせいか? ご参加頂く方が増えましたが、TPiCS を理解して頂くのは、なかなか難しいようです。私としても週 5 日の内まるまる 1 日をこの勉強会に当てているので大変なのですが、ご参加の皆さんは毎週飛行機に乗って通って頂いている方もいたりして、私よりモット大変だろうと思います。頑張っていて続けたいと思います。

「プロジェクトマネージャ養成コース」は、もちろん「総合コース」以上のことを勉強して頂きます。

「総合コース」の内容をマスターしていることを前提に、さらに「TPiCS の使い方、考え方、生産管理そのもの、システム構築手法」などを、人に説明、説得できるレベルに成れるように勉強します。13~14 週間の勉強を経て、ご希望により試験を受けて頂き、合格すると「TPiCS 認定指導員」さんに認定させて頂きます。

各回の勉強内容をホームページ (<http://www.tpics.co.jp/>) でご覧頂けますので、勉強したい回だけ選んで参加、あるいは見学することも出来ます。(参加費用は無料です)

第 9 期は、11 月 1 日(火)からスタートする予定です。

11 月から月例の「TPiCS 研修会総合コース」(月~木)に、「個別生産コース」(金)を追加します。

個別生産用の機能は強化しましたが、これまで研修会を始めマニュアルや各種説明資料など、個別生産に関してはいろいろな面で十分とは言えない状況でした。折角システムの機能強化をしても、使い方が分からなくては何事ありません。今後は、順次充実させていきたいと思っています。

個別生産コース開設に伴い、総合コースから製番管理オプション、一品生産管理オプションの説明を省き、金曜日に丸一日かけて説明することにしました。個別生産コースでは総合コースで説明する TPiCS の基本部分は説明しないので、総合コースを受講なさっていることが必要です。

生産管理の経験者を募集します。募集地域に制限はありません。東京以外の方でも海外でも歓迎します。

6 ページの募集要領をご覧頂き、志ある方はご応募下さい。

今回のテーマ

- 自民党の大勝を見て考えたこと。原価について (巻頭 2 題)
- 受注と所要量計算と平準化について
- SAP Business One との関係テンプレート (SBO for TPiCS) について
- PCA Dream 21 との関係について
- 60 才未満の生産管理システムに関する経験者を募集します



■昔から「TPiCS は良い商品ですが、安いし、機能が充実しているのでカスタマイズする必要もなく、我々 SI 業者が扱っても利益が出せないため、TPiCS では商売にならないのです」と、沢山の方から言われてきました。あるいは「モット TPiCS の値段を高くして下さい」とも言われてきました。

私も、多少迷った時期もありましたが「完全パッケージ、カスタマイズ不要、低価格、高機能、専門家向け、敷居が高いシステム・・・」の路線を守ってきました。最近では 前回のレポートでご紹介したように、「ユーザーが TPiCS のデータを利用して資料などを簡単に作るための開発ツール(StiLL)」をおまけで付けてしまうことにしたため、アドオンシステムの開発すら必要性が少なくなりました。

しかし、ここまでシステムの機能強化を続けてくるとユーザーを中心に、いろいろな方から高く評価して頂けるようになりました。

私は社内で、「ユーザーは、巧く使ってくれば最強の

営業マンになるはずだから、しっかりサポートしなさい」と、いつも言っています。

TPiCS のユーザーリストを見ると、同じ会社で複数の工場が、次々と TPiCS を購入しているのが分かり、それがその証拠です。

最近では「私は TPiCS というシステムを知らなかったのですが、弊社のお客様から“TPiCS は良いシステムだから、あなたの会社でも TPiCS を販売したら”と言われました」とか、「TPiCS さんはスゴイですね。ユーザーが TPiCS を名指しして来ます」などと言って頂けるようになりました。

今はご存じの方は少ないと思いますが、Windows の時代が始まり Visual Basic が華々しく発売されたころ、VB 版 TPiCS なるものを発売(1995/8)しました。

Visual Basic で画面操作部分を作り、すでに DOS 版からの実績がある TPiCS のロジック部分を Delphi で DLL にし、Visual Basic がその DLL をドライブする構造のシステムです。

そして、Visual Basic 部分は TPiCS の SI さんが自由にカスタマイズ出来るものとなりました。つまり私は、SI さんがカスタマイズすることにより儲けてもらえるよう考えた訳です。しかし、その結果は惨憺たるものでした。アチコチで、高額のカスタマイズ費用を払ったのに「動かないユーザー」が多数出来てしまいました。TPiCS 流ではない使い方をしようと思ったのでしょうか、十分(?)にカスタマイズを行ったが、やはりうまく動きませんでした。

その結果を見て、私は考えました。お金を中心に考えてはいけません。効率よく生産するためには何をしなければならないか。見せかけのニーズに振り回されず、本質を見抜き、何が必要なのか、管理するためには何をしなければならないかを考え、それをシステムとして具現化する。見かけや、耳あたりの良い甘い言葉ではなく、真にユーザーの為になることは何かを、追い求めなければならない、と。ありがたいことに、そのころから私の考えを理解して下さる SI さんもいて TPiCS を販売して下さいました。弊社は少人数の会社ですから、それだけで十分やっていくことが出来ました。そして、本物を作り続けなければいつかは分かってもらえるようになると、自分に言い聞かせて来ました。そして、Btrieve 版 TPiCS(1997/7)の時代を経て、次に開発したのが TPiCS-X(1999/5)です。そして 6 年が経ちました。この間、TPiCS-X を更に成長させて来ましたし、またこの考え方がユーザーから支持して頂けるようになったものと思います。

しかし、TPiCS の場合「カスタマイズ不要 (=SI さんが商材として扱ってくれない)」という考え方にはジレンマがあります。それは「TPiCS が難しい」からです。だれか TPiCS に詳しい人がユーザーを指導したりサポートすることが必要です。この役割を TPiCS の SI さんや認定指導員さんにやって頂きたいと思っています。そして、この考え方を理解して頂ける SI さんが増えています。

■原価について

この仕事をしていると、いつも「原価を知りたい」というお客様の声と向き合うこととなります。そして私は「お定まり」のように、「そんなところで頑張ってもしょうがないじゃないですか」という気持ちになります。私は「原価の専門家」ではないので、私の考えを話しても影響力はないだろうと思うし、私の考えが間違っているかもしれないとも思うので、これまではただ悶々としていただけでした。しかし本日、公認会計士であり原価に関する専門書もお書きになった「原価の専門家」の先生とお目に掛か

るチャンスがあり、私がいつも考えていることを聞いて頂いたら、「それでよいです。自信を持って頂いて結構です」とお墨付きを頂きました。

「では」と、ということで今回は原価について書きます。はじめに断っておきますが、今の TPiCS-X は私が少々とはいえ、20 年間にわたり原価についてもユーザーのニーズに応え、改良を続けたことにより、次のようなことまで可能になっています。

- ① 当月生産した全てのアイテム（製品、中間ユニット等）が、いくらで出来たかが分かります。
 - ・ 自分の発生原価（加工費＋補助材料費など：TPiCS ではレベル単価と呼びます）と、子アイテムの原価（簿価：TPiCS では積上単価＝引落とし単価）を加算した原価として、いつでも集計表示することが出来ます。
 - ・ TPiCS-X は、どこで生産するかによって異なる製品構成にすることが出来ます。例えば社内で生産する場合は、全ての子部品を手配しなければなりません。協力会社さんで作るときは、手に入りやすい部品などは協力会社さんが手配する、というようなことを管理出来ます。そのような場合でも、実際に生産した時の構成で原価を把握することが出来ます。
 - ② 製品毎に、実績原価と標準原価を、費目別に対比しながら表示することが出来ます
アイテムごとに持っている自分自身の発生原価（レベル単価の実績単価と標準単価）の単価を、製品構成表（BOM）を使って集計します。
 - ③ 製番ごとの原価が分かります。
 - ・ 製番が終了してからいくらで出来たかが分かったのでは、手遅れですから、実行中の製番はアイテム（作業あるいは購入部品）ごとに、実績計上済みは実績原価、未計上なら予算（標準原価）、さらに分納状態（10 個の計画の内 3 個だけ完了）のものがあれば、実績計上済み分（3 個は）は実績原価、残り（7 個）は予算で集計されます。
 - ・ この製番別原価のデータを、毎月末 保存しておくことが出来、例えば先月末時点の値と当月末時点を対比することが出来ます。
 - ④ コストセンター（TPiCS-X では原価担当＝製造担当）ごとに、簡易損益計算が出来ます。
原価担当ごとに、
 - ・ 前月末在庫金額と
 - ・ 当月の発生原価（自分の加工費＋子アイテムの引落しした金額）
 - ・ 売上げ（後工程が引落した金額＋他部門へ在庫移動した金額＋一般的な売上げ）
 - ・ 当月末在庫から、部門毎の損益を計算します。そのとき、引落や在庫移動の売上げは、標準単価ベースで計算します。これにより、現場が効率よく仕事をすると、利益が出るような仕組みになっています。
- ◆ 製品別原価の精度はどこまで必要か？
原価、原価と言いますが、原価を知ってどうするのですか？

私がお客様にこのような質問をすると、返って来るのは「社長が、原価が分かるようにしろ と、言うから」とか、「最近お願いしたコンサルタントの先生に言われて・・・」、あるいは「株の上場をねらっていて・・・」など、話は様々ですが、なかなかもっともらしい答えは得られません。

あるとすると「どの製品が儲かっているのか、どの製品が損をしているのかが分からないので・・・」や「得意先からの値下げ要請に対応するため」や「幾らで出来るか分からなくては、商品の価格設定が出来ないから」などです。

でも、チョット待って下さい。

- ・損をしているからといって、その製品をラインナップからドロップすることが出来るのですか？
あるいは、得意先からの注文を断れるのですか？
- ・また、儲かるからといってその製品だけもっと売れるように出来るのですか？
もっと注文下さいと言えるのですか？
- ・利益が出る商品で値下げ要求に応えるより、数量が少ない商品で値下げした方が良いと思いませんか？
- ・新製品の価格を決めるとき、原価より競合他社との関係の方が重要なファクターではありませんか？

私がここで最も重要だと思うのは、「製品別の原価」を使うシーンを考えると、いずれも原価よりもっと大きなファクターで意志決定することが多い、ということなのです。

別の言い方をすれば、これらの用途なら、製品別の原価の精度が、多少悪くても経営の意志決定には影響を与えない、と言うことです。

ただし、「原価低減活動」の達成率評価のために原価を使う場合は、違います。そもそも評価しようとする基の値が数%なので、同じようには考えられません。

原価低減の主要因は、作業効率の向上と、外部から調達する購入単価の低減です。

作業効率は、製品単位で評価するより、作業班などのデータの発生源ごとに評価する方が自然です。データの分析や集計は、発生源ごとであれば非常に簡単に行えます。TPiCS の中でも、発生源ごとに標準作業時間÷実績作業時間などの値を出すのは、いとも簡単です。あるいは、分母はタイムレコーダをベースにした時間と比較するのも意味があります。これも発生源ごとに数値を出すのは簡単です。

購入単価の達成率評価は、発注先ごとに直接金額計算ができるので簡単です。

製品ごとの原価低減の達成率が、良くても、悪くても、その原因を考えようとすると、結局は発生源ごとの分析が必要になります。

◆製品別の正しい原価は絶対に分からない

私は「一般的にいわれる原価を知る」ことに対し冷ややかではありますが、全く指標なしで良いと考えているわけではありません。

そもそも本当に正しい原価は、“絶対”といってよいほど、分かりません。

電気代をどう割り振るのですか、設備等の減価償却費をどう評価するのですか、一般管理費はどう割り振るのですか、直接紐付けできる原価が 8 割、9 割あって、残りを「決めごと」で配分するなら、直接紐付けできる原価の精度を上げることに熱も入りますが、直接紐付けできるものが少ないときには、一生懸命頑張っても意味がない、と思うのです。

◆原価の合計は絶対に正しい

例えば、製品 A の標準原価が 10 円、製品 B が 20 円、製品 C が 30 円だとします。

今期（今月）A を 100 個、B を 200 個、C を 300 個生産したとします。

すると、 $10 \times 100 + 20 \times 200 + 30 \times 300 = 14,000$ 円が標準原価をベースにした原価の合計です。

しかし、実際に発生した費用（出金伝票+減価償却費などの合計）は、15,000 円だったとします。

差が 1,000 円あります。

その 1,000 円を、A と B と C に割り振ります。

例えば、A は $(10 \times 100 / 14,000) \times 1,000 = 71.43$ 円

B は $(20 \times 200 / 14,000) \times 1,000 = 285.71$ 円

C は $(30 \times 300 / 14,000) \times 1,000 = 642.86$ 円

と計算します。

となれば、A の単価は $10 + 71.43 / 100 = 10.71$ 円

B の単価は $20 + 285.71 / 200 = 21.43$ 円

C の単価は $30 + 642.86 / 300 = 32.14$ 円

これが、実績単価だった筈です。

試しに検算してみれば、 $10.71 \times 100 + 21.43 \times 200 + 32.14 \times 300 = 14,999$ 円です。

1 円の誤差しか発生しない実績原価を知ることが出来ました。これは、誰がなんと言おうと、立派な「実績単価」「実績原価」です。

この方法でもし間違いがあったとすると、もう少し A が高かったのか、C が安かったのか、です。

誤差があっても、何かが高ければ、何かが安いだけの話しです。とにかく発生した費用は 15,000 円に対し、1 円しか違わないのですから、合計では正しいのです。

今は説明を簡単にするために、期首在庫と期末の在庫の関係を省いたり、全てを比例配分しましたが、実際には、期末の在庫分を引いたり、差の中でも紐付け出来るものがあれば、それをその製品に先に配布し、残りを比例配分します。

比例配分も、今は総原価で比例配分しましたが、作業時間をベースにしてもよいし、設備の稼働時間を使っても良いわけです。

この説明は総合原価計算方式的な説明ですが、本質的には製番も同じです。しかし、製番の場合は、月や期をまたぐことがあるため、上記のような配分がしにくいという性質があります。とはいえ、どんなに頑張っても直接製番に紐付け出来ない原価が沢山あるはずで、最後は何らかのルールで比例配分するしかありません。それを、どこまで紐付けするか、どこで割り切るかの問題です。

また、この説明では、標準原価をベースに、差を比例

配分しましたが、TPiCS-X の中では、そんなに頑張らなくても実際に掛かった時間をインプットし、実際に買った価格をインプットすれば、それだけで それなりに実勢を反映した原価を把握することが出来ます。それを使って差額を計算すれば、もう少し気持ちよいかもかもしれません。

ここで重要なことは、**製造原価の合計金額は、(期首棚卸し金額+当期発生金額-期末棚卸し金額) ですから、正しく決算書を作れば必ず分かります。それは粉飾決算をしないかぎり正しいのです。それをどう区分けするか だけの問題です。それが不正確だったとしても、どちらかが高めに、どちらかが低めに出るだけの話で、その合計は必ず正しいということです。**

● TPiCS の最新バージョンをホームページからダウンロードして頂けます。(ユーザー様、SI 様専用です)

毎週月曜日の午後にシステムの最新版をアップロードしています。(ダウンロードは火曜日以降にして下さい) その他、TPiCS-X のマニュアルや、プログラムの修正情報、無料でバージョンアップを行う方法や、技術資料、関連セミナー 展示会等のご案内、このレポートのバックナンバーも掲載されています。<http://www.tpics.co.jp/>

● ニノ宮良夫の無料相談室のご案内

このレポートや弊社ホームページで相談内容を公開させて頂くことを前提に、無料で私 ニノ宮がユーザーの導入指導あるいは問題解決をしています。直接、あるいは SI 様経由でお申し込み下さい。

1 対象：TPiCS-X の新規ユーザー、既ユーザー

2 相談内容：

- ・新規導入時のマスターから運用の道筋作りまで
- ・既ユーザーの巧く使えていない状況の改善
- ・カスタマイズやアドオン等のシステムデザインなど、何でも可。

3 結果：

レポートやホームページで公開します。
雑誌社の取材等にもご協力をお願いすることがあります。

4 打ち合わせ場所：弊社

5 費用：無料

● 弊社(巣鴨)の毎月の研修会「総合コース」、「個別生産コース」について

弊社(巣鴨)の研修会に、同じ方が2回目 3回目の受講をする場合は、料金を半額に致します。1回受講しただけでは良く理解できないことが多いようなので、複数回受講して頂き、TPiCS-X を上手に使用して頂きたいと思えます。

● 出張サポートサービスのご案内

困ったときのお助けマンを行います。システムのインストールや、基本機能の説明、バージョンアップ作業などを行います。**基本機能の説明、問題解決サービス：84,000円、システムのインストール、バージョンアップ作業：52,500円** (それぞれ1日当たりの料金：交通費宿泊費別途)

受注と所要量計算と平準化について

No.74のレポートあたりから、私の頭の中ではこの問題がくすぶり始めていて、No.75でご紹介したような機能強化も言い、いろいろ整理をしてきました。今回はその問題とTPiCS-X で出した答えを簡単に説明します。

(1)問題点の整理

生産管理の問題は、三つ巴、四つ巴になることが多くどうしても説明が長くなってしまいます。

1. 受注すなわちお客様のニーズをできるだけ早い時点で対応したい と考えると、今日の計画から所要量計算することになります。
2. 今日の計画から所要量計算すると、既に手配されているものとの関係の問題が発生しますが、これは既にf-MRP で解決されているので、ここでは触れないことにします。
3. 今日の計画から受注データに直結した所要量計算をすると、平準化の問題が発生します。
つまり、昨日の計画(生産レベル)を無視した計画を算出してしまうので、平準化が出来ないことになります。
4. 逆に平準化を優先しすぎると、需要との乖離(差)

が大きくなってしまいます。これは、需要のバラツキ(大きい時と小さい時の差)が大きければ大きいほど、また、商品の種類が多ければ多いほど、問題が大きくなります。また、需要変動の周期(月末集中、季節性等)も考慮しなければなりません。

(2)考え方とTPiCSの設定

それぞれ相対する問題がある場合は、バランスを考え現実に即した適切な答えを出すしかありません。
この問題は、「何日間平準化(同じ負荷レベルに)するか」を決めることから答えを導き出します。
平準化する期間が短く、かつ周期が短くバラツキが大きくなると、人員配置が間に合わなかったり、設備の生産能力が不足する可能性が出てきます。
ここでは説明を進めるため、1週間平準化すること決めたとします。

次は、「最終工程の来週の計画を、何日前に仮固定するか」を決めます。

初工程から最終工程まで、どこにも在庫（滞留）が無ければ、初工程が何日前からスタートするかを考えなければなりません。在庫ポイントがあれば、それ以降の合計後期を考えれば良いことになります。

例えば、3日前に翌週の計画を仮固定する場合があります。土日休みで3日前は水曜日ですから、水曜日に翌週の計画を見直しし、所要量計算します。

他の日は、所要量計算を行い伝票を発行しますが、仮固定する期間を延長しない運用になります。

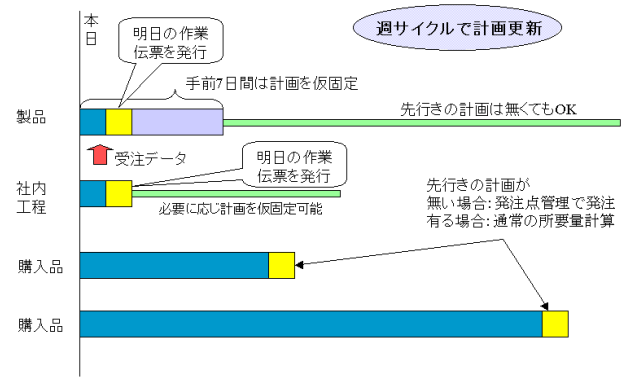
この場合は、アイテムマスターの「固定期間」には、“7”をインプットします。

次は、何日前に伝票を発行するか考えますが、社内工程の場合、例えば「今日中に明日の伝票を発行する」なら、伝票発行期間には“1”をインプットします。

最後は、得意先からの受注データを考えます。内示など先行きの計画がある場合は、それを TPiCS-X

のデータに読込んでおき、確定データが来たら内示データを消込みながら読込みます。

(3)運用方法



- 水曜日は、翌週の平準化などをキチント調整します。
- 他の日は、社内工程にもジャーナルが出る可能性があります。その場合は負荷状況も加味して「作るか作らないか」を考えます。

TPiCS-X と SAP Business One (SAP 社) の関係テンプレートについて

SAP 社の中堅・中小企業向け統合型 ERP パッケージである SAP Business One と TPiCS-X を関係して使うためのテンプレート (SBO for TPiCS) が発売されます。

ロータスビジネスコンサルティング株式会社さんが、SBO for TPiCS を開発し、また TPiCS は下記機能強化を行い 2005 年 11 月末に発売する予定です。

(1)関係の概要

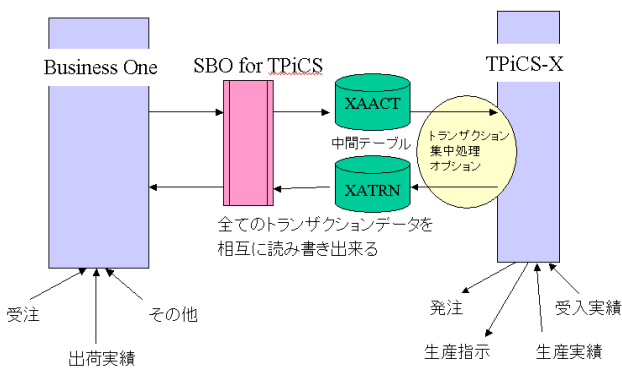
TPiCS-X は、2004 年 8 月 (1 年前) から、全てのトランザクションデータを中間テーブル(XAACT)から読込むことが出来るようになっていました。

今回 Business One と関係するにあたって、TPiCS-X でインプットした全てのトランザクションデータを中間テーブルに書出すことにしました。

これにより、新しく開発する関係モジュールを簡単に作れるようになります。つまり、二つのテーブルを意識するだけで全てのトランザクションデータを TPiCS と共有することが出来ます。

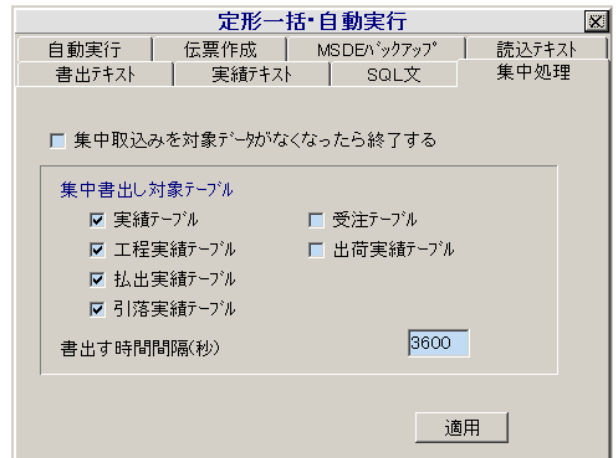
この関係モジュール(SBO for TPiCS)をロータスビジネスコンサルティングさんが開発なさいます。

TPiCS-Xと SAP Business One 関係の仕組み



(2)TPiCS-X 側の機能

従来、中間テーブルからトランザクションデータを取



り込む機能は、TPiCS-X の中では「連続集中取込オプション」で実現していましたが、今回の機能強化でこのオプションの名を、「トランザクション集中処理オプション」に変えることにしました。

- ・[システム環境設定]-[システム設定]-[定形一括・自動実行]-[集中処理]で、「集中書出しの対象にするテーブル」の設定と「書出す時間間隔」を設定します。
- ・実行は、[定形一括]-[一括処理]の[集中書出]ボタンをクリックします。
- ・設定した時間間隔で継続的に書出ししているのを終了する場合は、もう一度同じボタンをクリックします。[集中書出]ボタンをクリックすると、そのボタンのキャプションが「書出し中」に変わります。キャプションが「書出し中」の時、ボタンをクリックすると、終了します。
- ・これら処理の開始終了を外部システムから制御する

ことが出来ます。

- TPiCS-X 中の制御
書出す対象テーブルの設定をすると、TPiCS-X はそのテーブルに自動的に「書出済み(WATRN)」項目を作ります。そして、中間テーブル(XATRN)に書出すと TPiCS-X は WATRN に“1”を書込みます。
“1”のデータは次回は書出さないようにします。
- 運用上の取り決め
通常の会計システムと関係する場合もそうですが、このように他のシステムと関係する場合は、TPiCS-X の[システム環境設定]で、「実績データの修正は赤伝でしか行わない」設定を行います。

(3)運用イメージ

通常、お客様からの受注データを受け取るころから出荷、納品書の発行、請求業務は Business One 側で行い、生産側は TPiCS-X で処理するのが一般的だろうと思います。

その例で少し具体的な運用方法を説明すると、

- Business One で処理した受注データを中間テーブル (XAACT) へ書出します。
- TPiCS-X はそれを読み込み TPiCS-X の受注データとします。(この処理を行うためには TPiCS-X の受注販売管理オプションが必要です)
- TPiCS-X は平準化の調整などをし、仮固定した生産計画と、受注データを使い所要量計算します。
- 注文書や作業伝票を発行します。
- 伝票に従い部品や材料が納品され、社内の作業が進み、その実績を TPiCS-X でインプットします。
- 生産実績の「実績データ」と子部品を使った実績を記録している「引落とし実績データ」を中間テーブル (XATRN) へ書出します。
TPiCS-X は全ての工程の実績を書出すことが出来ませんが、Business One 側は、まず製品の完成実績を取込み、製品の在庫処理を行います。
- さらに Business One で出荷実績をインプットし、

そのデータを中間テーブル (XAACT) へ書出します。

- TPiCS-X は中間テーブル (XAACT) の出荷実績データを取込み、TPiCS-X の製品在庫をマイナスします。
- その他、Business One は TPiCS-X のトランザクションデータを取込み、会計処理を行います。
- TPiCS-X も関係モジュール (SBO for TPiCS) も全てのトランザクションデータを中間テーブルを介して読み書き出来るので、例えば製品の完成実績をインプットすると同時に出荷実績も TPiCS-X でインプットし、納品書を TPiCS-X で発行し、請求書は Business One で発行するような運用も出来ます。

(4)応用機能

- トランザクション集中処理オプションの「書出し機能」を使うと、Business One と関係しない場合も、TPiCS-X 自身の実績データのログとして使うことが出来ます。
- 「取込み機能」を使うと、所要量計算中の実績インプットを制御できます。
現場が作業終了したら直ぐ実績インプットをする運用の場合、所要量計算中も実績インプットが行われます。所要量計算を始めるとき、集中取込みを中断し、計算が終わったら、取込みを再開します。現場のオペレーションは止めずに、所要量計算中の実績の反映を遮断することが出来ます。

(5)お問い合わせ先

TPiCS-X 自身については、勿論弊社に問い合わせして頂きますが、関係モジュール (SBO for TPiCS) については、

ロータスビジネスコンサルティング株式会社

住所：東京都中央区日本橋蛸殻町 1-16-11

担当：安間さん、東盛さん

電話：03-5649-0105

メール：lotusbc@lotusbc.co.jp

に、お問い合わせ下さい。

TPiCS-X と PCA Dream21 との関係について

ピーシーエー株式会社さんのご協力を頂き、買掛明細、売掛明細を TPiCS-X と Dream21 専用フォーマットで、TPiCS-X が書出しし、Dream21 が読み込み出来るようにしました。

PCA さん側のお問い合わせ先

ご担当：Dream 21 事業部 渋谷さん、坪井さん

電話：03-5211-2700

メール：dream21@pca.co.jp

60才未満の生産管理に関する経験者を募集します

TPiCS 認定指導員さんやシステムインテグレータ様の中には研鑽を積んで、導入指導出来るスキルを身につけて頂いた方もいますが、まだまだ不足しています。また、「TPiCS の導入指導」という枠を超えて、もっと強力な支援が必要なことも沢山あります。一方、貴重な経験を積んだ「団塊の世代」の大量の企業流出が始まります。そこで、生産管理に関する経験者と、「生産管理の業務改革」の仕事を始めたいと思います。TPiCS の導入指導から始まり、「期間を限定した生産管理部長職の請負」のような仕事が出来ないかと考えました。

経験を必要とするため、年齢制限を 60 才未満にいたします。

周りに工場が沢山ある地域であれば、東京以外の地方や海外の方も歓迎します。

SE プログラマも募集します。(こちらは東京勤務、経験不問) 二ノ宮へ直接お問い合わせ下さい。

二ノ宮

個人情報保護について

このレポートは過去、弊社へ資料請求をいただいた方、紹介セミナーや TPiCS の研修会にご参加頂いた方にお送りしております。

お客様の個人情報は、レポートの発送を含め TPiCS-X の営業の目的で使用させていただきます。

住所等の変更、あるいは発送の中止は、

<http://www.tpics.co.jp/freetm/reportform.htm> でも行えます。その他お問い合わせは、直接

弊社(Tel03-5395-0055)にお願いいたします。